

# 第216回 大阪小児科学会

## ◇◇ プログラム ◇◇

### ■ Aセッション .....(14 : 00~14 : 36)

座 長 新 田 雅 彦 (大阪医科大学 小児科)

1. 反復する腸重積と溶血性尿毒症症候群を認めた病原性大腸菌O-157感染の4歳男児例  
高槻病院 小児科<sup>1)</sup>, 同 小児集中治療科<sup>2)</sup>, 同 小児外科<sup>3)</sup>  
山本和宏<sup>1)</sup>, 起塚 庸<sup>1)2)</sup>, 松井美樹<sup>1)</sup>, 李 崇至<sup>1)</sup>, 大西 聡<sup>1)2)</sup>, 橋村裕也<sup>1)</sup>,  
内山敬達<sup>1)</sup>, 吉本 昭<sup>1)</sup>, 渡部 彩<sup>3)</sup>, 棚野晃秀<sup>3)</sup>, 津川二郎<sup>3)</sup>, 西島栄治<sup>3)</sup>,  
南 宏尚<sup>1)</sup>
2. 保存的治療で軽快しえた、腸閉塞を伴う小児の外傷性十二指腸壁内血腫の一例  
高槻病院 小児科<sup>1)</sup>, 同 小児集中治療科<sup>2)</sup>, 同 小児外科<sup>3)</sup>  
石河慎也<sup>1)</sup>, 起塚 庸<sup>1)2)</sup>, 大西 聡<sup>1)2)</sup>, 橋村裕也<sup>1)</sup>, 内山敬達<sup>1)</sup>, 棚野晃秀<sup>3)</sup>,  
津川二郎<sup>3)</sup>, 西島栄治<sup>3)</sup>, 南 宏尚<sup>1)</sup>
3. 大阪府における災害時小児周産期リエゾンの活動について  
大阪府災害時小児周産期医療検討会<sup>1)</sup>, 大阪市立総合医療センター 新生児科<sup>2)</sup>  
市場博幸<sup>1)2)</sup>, 竹本 潔<sup>1)</sup>, 荻田和秀<sup>1)</sup>, 和田和子<sup>1)</sup>, 丸山朋子<sup>1)</sup>, 古谷信介<sup>1)</sup>,  
山下公子<sup>1)</sup>

### ■ 総 会 .....(14 : 36~14 : 50)

議 長 村 上 城 子 (和泉市立病院 小児科)

### 教育講演 .....(14 : 50~15 : 50)

座 長 村 上 城 子 (和泉市立病院 小児科)

新専門医制度 更新基準 ii 専門医共通講習 (1点) 対象講習

医療安全「リスクマネジメントの考え方」

松 村 由 美 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理室長)

※単位の取得には、60分の講演にすべて出席することが必要です。

遅刻や途中退席の場合、聴講は可能ですが、単位は取得できません。

—— 休 憩 (15 : 50~16 : 00) ——

■ Bセッション .....(16 : 00~16 : 36)

座 長 永 井 利三郎 (プール学院大学短期大学)

4. 福島小児甲状腺がん罹患率比と原発からの距離の関係  
大阪赤十字病院附属大手前整肢学園<sup>1)</sup>, 医療問題研究会<sup>2)</sup>  
山本英彦<sup>1)</sup>, 伊集院真知子<sup>2)</sup>, 入江紀夫<sup>2)</sup>, 高松 勇<sup>2)</sup>, 林 敬次<sup>2)</sup>
  5. 福島原発事故を巡って— 本来集計されるべき甲状腺がん患者除外問題の分析  
たかまつこどもクリニック<sup>1)</sup>, 医療問題研究会<sup>2)</sup>, 入江診療所<sup>3)</sup>, はやし小児科<sup>4)</sup>,  
大阪赤十字病院附属大手前整肢学園<sup>5)</sup>  
高松 勇<sup>1)</sup>, 伊集院真知子<sup>2)</sup>, 入江紀夫<sup>3)</sup>, 林 敬次<sup>4)</sup>, 山本英彦<sup>5)</sup>
  6. WHOが抗インフルエンザ薬タミフルの使用を重症に限定した経過とその意味  
はやし小児科<sup>1)</sup>, 医療問題研究会<sup>2)</sup>, 入江診療所<sup>3)</sup>, たかまつこどもクリニック<sup>4)</sup>,  
大阪赤十字病院附属大手前整肢学園<sup>5)</sup>  
林 敬次<sup>1)2)</sup>, 伊集院真知子<sup>2)</sup>, 入江紀夫<sup>3)</sup>, 高松 勇<sup>4)</sup>, 山本英彦<sup>5)</sup>
- A～Bセッションは講演各6分, 討論各6分とし, 教育講演は講演50分, 質疑応答10分とします。

## 第8回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日 時 : 2017年12月2日(土)

大阪小児科学会 (大阪市大医学部附属病院5階講堂) 終了後開催。

会 場 : 学会終了後, 同じ会場で引き続き開催いたします。講演と質疑で約2時間を予定。

日本学術会議報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題」の問題点

講 師 : 山 田 耕 作 先生 (京都大学名誉教授)

**講師紹介 :** 山田耕作先生は, 東京大学や京都大学で永年研究に従事され, 京都大学大学院理学研究科で物理学の教授をされていました。物理学者の目で, 福島事故後の放射能汚染の実態を評価し, それが生体や健康に及ぼす影響を語っていただきます。今回, 山田先生は, 本年9月に発表された日本学術会議報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題」を題材に, 科学的根拠を明らかにするという立場で批判的吟味をされています。福島原発事故後の放射線被ばく線量はいかに考えられているか? 事故後の放射性ヨウ素の被ばく量はどうか。放射性セシウムはどうか。そして, それらの放射線被ばくによる子どもへの影響はいかなるものが生じるか? 甲状腺への影響は, 発がんや遺伝的影響はどうか。当日は, さまざまな研究事実から, どう考えるかを語っていただきます。また, 山田先生は, 科学社会学・科学技術史も専門とされており, 科学者の社会的責任という観点からも報告していただきます。小児医療を担うものとして問題を深めていきたいと思っています。ご参加いただけることを心より願っています。

主催 : 大阪小児科学会地域医療委員会